太平洋側４港湾連携会議 第３回「意見交換会」概要メモ

◎　日　時：平成 23 年 10 月 26 日（水）13：30～17：00
◎　場　所：苫小牧港管理組合 ３Ｆ会議室

１．　苫小牧港管理組合　玉川総務部長挨拶（要旨）

本来なら専任副管理者の佐々木からご挨拶すべきだが、公務のため変わってご挨拶させていただく。本日はお忙しいなか苫小牧での意見交換会にご参加いただき感謝申し上げる。

苫小牧は、今年 5 月にクルーズ協議会を立ち上げたばかりで、クルーズ船誘致の歴史が浅くノウハウもない。試行錯誤だが官民一体となってクルーズ協議会に結集し始めたところ。本日の会議により「今後のイベントの成功に導けるよう」期待している。

２．　北海道運輸局海事振興部　立花次長挨拶（要旨）

皆様におかれては日頃より各地区で頑張っておられ、とりわけ 4 港湾連携については最近の海事新聞で取り上げられるなど、良い意味で報道されている。北海道クルーズ振興協議会としても引き続きバックアップしていきたい。

函館の岸壁での「イカ踊り」、「またきてね」「またくる」との掛け合いなど一体感があり感激した記憶がある。毎回感動があり、岸壁へ集まる市民（自分らを含め）による見送りは素晴らしい。

今回の意見交換会ではＶＪ地方連携事業も議論される。事業実施の成果を期待する反面、事業費の１／２地元負担などシビアな問題がある。ここら辺もきっちり確認しておく必要がある。北海道クルーズ振興協議会としても側面的に支援をしていきたい。

３．　議題

（1）　首都圏セミナーの実施内容について

当初、全客連の会合に合わせ実施の予定だったが、場所等の問題から 11/22（火）開催に変更した。「どのように実施すべきか」事前にアンケートをとったが、本日、皆様に正直なご意見、具体的なご提案をいただき方向性を決めたいと考えている。

ちなみに、皆様にご協力いただき作成したプロモーション資料（「秋」バージョン、「春・夏」バージョン）は、これまで２回、船社等へ送っている。

また、10/31（月）の全客連の会合でもプレゼンできる時間（各 25 分）をいただいている。こちらの内容も決めなくてはならない。プレゼンは、国内及び海外船社、ＧＳＡ（販売総代理店）など６つのブースに対し、参加の港湾を６グループに分け、それぞれのグループが順にブースを廻って行う。（北海道太平洋側の 4 港湾は「青森港」をプラスしたグループに編成された。）

このため、事前に函館、室蘭、青森の港湾担当らで検討したプレゼンの「イメージ（案）」を本日の配布資料として添付した。資料に使用する「写真」もこれで良いか聞きたい。

「イメージ（案）」は、「演歌」をテーマに、都合良く歌詞に５港湾が入っている氷川きよしの「初恋列車」をモチーフとして、クルーズ商品の造成を要請すべく「飛鳥Ⅱ」のパンフに準じ資料作成したもの。

→全客連の会合時と首都圏セミナー時の２回のプレゼンは、両方に参加いただく船社等もいるとのことで、プレゼン内容は別々に検討すべき。

①　10/31 全客連の会合時のプレゼンについて

☆何か面白いことをやってくれと言われている。今までパワポを使って「港」「アクセス」「地域観光」・・・など説明してきたが、初めて寄港するようなところには良いが、何回も寄港してもらっているところには新たなものが必要。関心を引くようなプレゼンでなければならない。

☆共通のテーマでやること、協力して統一感を持ってやることの強調が必要。

☆氷川きよしの「初恋列車」は面白い。曲を流しながら「1 回歌詞のある航路でやってみないか」と船社等に問いかける。

☆苫小牧と室蘭は同日の移動として組み立てられているが、今年同様な航路を経験済み

で問題はない。

☆使用する「写真（2 枚）」と「付属のコメント」（イメージ、ロゴ等）は、明日（10/27）までに函館へ送信すること。

② 11/22 首都圏セミナー時のプレゼンについて

☆22 日のプレゼンはある程度時間がある（2 時間）ので説明資料が必要。参考まで配布資料のとおりイメージ資料を作成してきた（釧路）。各地区のイベント情報を共有し連動させたプレゼンなど工夫できる。
（船社等から「いつ寄港すればよいか」との問い合わせに、「イベントに合わせて入港してもらうとそれぞれの地区で乗船客の満足度は拡大する」とプレゼンでき、港湾連携のメリットも強調できる。）

→各港から情報をもらってイベントの一覧表を作成する。フォーマットを作成し、メールにて各港湾に送信。各港湾はイベント名、日程など所用事項を入力の上、返信する。その後、一覧表として取りまとめ、必要部数を印刷するなど準備。

☆場所は海事新聞社の会議室で結構狭い。プロジェクターやスクリーン等を使用してパワポによるプレゼンができるか否か、確認する必要がある。

→近々確認し、ＰＣの持ち込みを含め、各港湾へ連絡する。

☆プレゼンの時間配分について

→「共通」に 30 分（4 港湾連携の趣旨、これまでの活動、共通テーマ、今後の展望、イベントカレンダーを使用した説明等）、各港湾担当者からの「個別」に各 15 分（それぞれが必要な資料を作成し対応する）、残り時間の 30 分を「船社等との質疑・応答」とする。船社から意見等が出ない場合は、プレゼンの感想を聞くなどして引き出す。

☆「花火」について

→函館は見る場所がない。室蘭は海保と禁止区域など最終協議中。釧路は来年度の「大漁どんぱく」で調整中。

☆首都圏セミナーの参加者（4 港湾）

→釧路（３名）、室蘭（1 名）、苫小牧（1 名）、函館（２名）は前日入りする（後日、「見取り図」を配布）。
　なお、案内文書を発出する北海道クルーズ振興協議会は、参加について持ち帰り検討する。

☆案内文書の発送はどのような名前で誰が発出するか

→北海道クルーズ振興協議会から 4 港湾連携にて首都圏セミナーを開催する案内文書を発出する。
　発出先は、近日中に一覧表を作成し、北海道クルーズ振興協議会事務局へメール送信する。
　その後、Ｅメールにより各組織の代表者や担当に案内文を送信する（できるだけ早く、11 月の第 1 週中）。
　出席者が少ない場合など、電話等にて出席依頼を行う。

（2）　ＶＪ地方連携事業について

☆10/28 応募締め切り。提案書（案）を配布資料のとおり作成した。

☆招請予定のスタークルーズＧＳＡの代表の話では、北海道の港をハブ港とした航路新設の可能性はあるとのこと。現在の５隻とさらに使っていない船舶も候補となる。
　しかし、北海道の港からの乗船客も一定程度期待されている。ただし、国内間の人の運送はカボタージュの問題がある。ウラジオストックなどロシアへのアウトバンドも考えられる。来年、招請事業を行い、再来年の航路新設に結びつけたい。

☆招請事業の実施時期は、8～9 月を想定しているが、キーパーソンのスケジュールや観光キーマンの招請など事業の抱き合わせの可能性もあり、未定（事業採択後にアプローチしてからでなくてはわからない）。

☆提案の招請事業は 1 社 1 名の招請で 300 万円を見込んでいる。これでは市の財政担当から了解を得られない。例えば、クルーズキーパーソン 1 名とＧＳＡのキーパーソン２名、合わせて３名招請すると言うような工夫をして欲しい。

☆実行委員会形式が後腐れ無いのではないか。

☆招請事業を旅行会社やプラニング会社へ委託する方法もあるのではないか。

☆時間はないが、現時点での修正意見等お気づきの点があれば、応募前の明日（10/27）までに連絡いただきたい。

→本事業の確認事項、要検討事項は多いが、期間も迫っていることから配布資料のとおり取り敢えず応募したい。その後、北海道運輸局の担当部局と相談し、差し替え等修正により対応する。

→要確認事項について、ＶＪ地方連携事業応募後に北海道運輸局の担当者へ電話にて確認をとる。
　判明後すみやかに各地区の担当と情報を共有するとともに、各運輸支局の企画等担当と連携し、提案書や総事業費・内訳等の修正を含め整理し進めていく。
（少なくとも 11 月上旬までに、地方の自治体等の財政担当や首長に対し、各地区の担当から一定の説明をし得るようメールを活用し情報提供する。）

（3）　その他

☆中国の上海に北海道庁の上海事務所を開設したと言うことで、レセプションの案内をさせていただいた。しかし、思いのほか出席者が少ない。
　北海道港湾協会の会長が苫小牧市長と言うこともありお願いとなるが、上海にあるクルーズ船社で招待できそうな方などをご紹介していただきたい。
　（可能であれば、明日まで（10/27）に各港湾から教えていただきたい。）

以　　上